

事業名	実施期間	場所	参加入場人員
(8) 文学講演会	一〇・三 一〇・三二	喜多方市公民館 郡山市中央公民館	一〇四
(9) 文化講座(郷土史) (文学、東洋文化、法学)	七・二八～八・二 年間	須賀川市文化センター 県文化センター	一九三 (公開講座四三〇) 五月～九月四五〇
(10) 映画会	五月～三月 年間	県文化センター	実施中
(11) 地域文化振興協力事業 (委託事業)	五月～六月、 九月～一〇月	表郷村外二四町村	八、七五六
(12) 家庭劇場 (共催事業)	一一・二二	県文化センター	一、四〇〇
(13) 人形浄瑠璃文楽公演 (共催事業)	一一・二六	県文化センター	一、四〇〇
(14) クロバーコンサート	八・七	県文化センター	一、四〇〇
(15) こども芸術劇場 ・美術博物館 (自主事業)	一〇・一 一〇・二五	県文化センター	三、三〇〇
(1) 福島県近代日本画の歩み展 ふるさとを描く展	九・一〇～九・二五	県文化センター	前期 一、二〇〇
(2) 美術ギャラリー展	四・一～四・二九	県文化センター	三期 一、二〇〇
(3) 美術講座・陶芸コース 絵画コース	七・二四～七・二六 七・三二～八・二	県文化センター	三期 三〇
(4) (委託事業)			
(5) 国立美術館所蔵内外美術名品展	一一・一九	県文化センター	前期 三三〇
(6) 福島県収蔵美術展 (共催事業)	四・一～四・二九 一月～三月	県文化センター	前期 三三〇
(7) 斎藤清展	四・二五～五・一〇	県文化センター	八、〇〇〇
(8) 福島県総合美術展	六・六～六・一七	県文化センター	一四、六七〇
(9) 二紀展福島展	六・二五～七・五	県文化センター	一一、〇〇〇
(10) イブ・ブレイエル展 ・歴史資料館 (自主事業)	七・一五～七・三一	県文化センター	三、八〇〇
(1) 自由民権運動一〇〇年記念資料展	一一・一 一二・一〇	県文化センター	延 一五九
(2) 古文書研究講習会	七・二四～二五	山都町公民館	
(3) 地方史研究講習会 (委託事業)	一一・四～五	富岡町	
(4) 古文書緊急調査報告 松枝岐向口留番所関係古文書展	年間	県文化センター	実施中
(5) 母畑地域等の遺跡分布発掘調査等	七・一～九・三〇 年間	県文化センター	三、四〇〇

## 県立文化施設の整備

### 一 県立美術館

県立文化三施設の整備事業は三年目に入り、文化施設整備室長以下十八名(営繕課併任四名・臨時職員二名を含む)のスタッフで取り組んでいる。前年度から準備を進めていた斎藤清展は、県立美術館の最初の事業として、四月二十五日から五月十日まで実施した。

本県の生んだ国際的な版画家・斎藤清氏(会津坂下町出身)から、主要作品二百八十四点の寄贈を受けたのを記念するもので、版画、コラグラフ、ドライポイント、墨彩、素描など二百十二点の展覧会を、県文化センターで開催した。

「会津の冬」「只見川」など、郷土をテーマにしたものをはじめ、サンパウロ・ビエンナーレ展受賞作「凝視・花」など、多くの国際展受賞・招待作品、最新作の「霊峰シリーズ」を含む作家生活の全期にわたる初の公開であったため、連日盛況を呈し、約九千人の観覧者を魅了した。

なお、同時に発刊した「斎藤清展図録」(二千部・一九五頁)も好評を博した。

建築基本設計は三月二十五日に納品

され、引き続き七月二十九日に建築実施設計を大高建築事務所へ委託し、年度末完成の予定で進められている。これに伴うボーリング調査は、北日本ボーリングに委託し、五月七月に十一地点について実施し、基礎工事関係データを整えた。

周辺整備事業は福島市が担当し、正面アクセス道路と新幹線側道と連結する東側進入路の設計を進めている。いずれも車道、歩道、並木等からなる文化ゾーンにふさわしい雰囲気を出す計画で、正面二十五畝・東側十八畝の路幅を予定している。敷地内は都市公園的整備をはかるため、日本緑化センターに委託して年度内に設計が完成するはこびになっている。

作品の収集は、前年に引き続き三木多聞専門委員をはじめ嘉門安雄・大島清次・桑原住雄・細野正信・黒江光彦・佐藤光の七氏が構成する収集評価委員会の審議によって進められている。今年度の収集作品は、現在までのところ次のとおりである。

- 洋画 自画像 岸田劉生 購入
- 洋画 鐸木西美肖像 高橋由一 寄贈
- 洋画 裏磐梯 斎藤与里 移管
- 洋画 そよ風 アンドリュウ・ワイエス 購入
- 洋画 ガニング・ロック アンドリュウ・ワイエス 購入
- 洋画 ドイツ人の住む所 アンドリュウ・ワイエス 購入